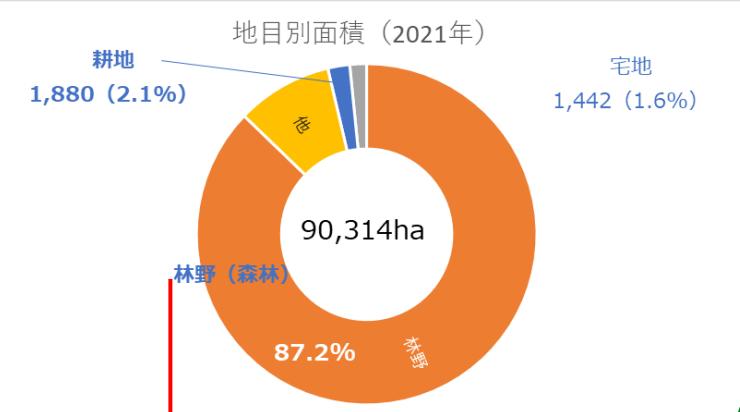


報告テーマ 「僻南のまほろばを歩く旅」

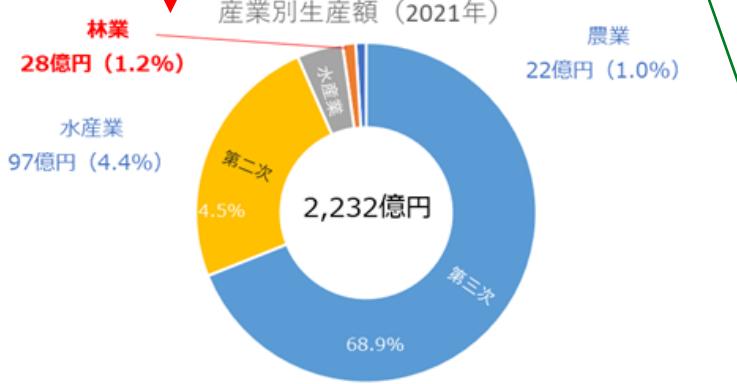
資料集

2024.09.15 (日)
佐伯市民大学・最終発表会
さいき城山さくらホール

佐伯市の土地利用と林業の状況



地目面積 (2021)
90,314ha (100%)



林野面積
78,757 (87%)

民有林
64,551ha
(82%)

国有林
14,206 (18%)

耕地
1,880 (2.1%)

田
1,380 (73%)

宅地
1,440 (1.6%)

その他
8,235 (9.1%)

人工林
33,559 (52%)

天然林
27,034 (42.3%)

保安林
25,293ha (39%)
水源涵養：75%

保安林
13,824ha (97%)
水源涵養：98%

**林野面積率 (森林率) 87%に対して
林業生産額比率1.2%、就業者比率1.0%**

<循環型資源の活用>

住みたい場所
働きたい場所

移住と
就業

森林資源

佐伯地方最大の
魅力資源

資料
①

ウェルネスツーリズム

森林の
保健文化
機能

関係人口創出

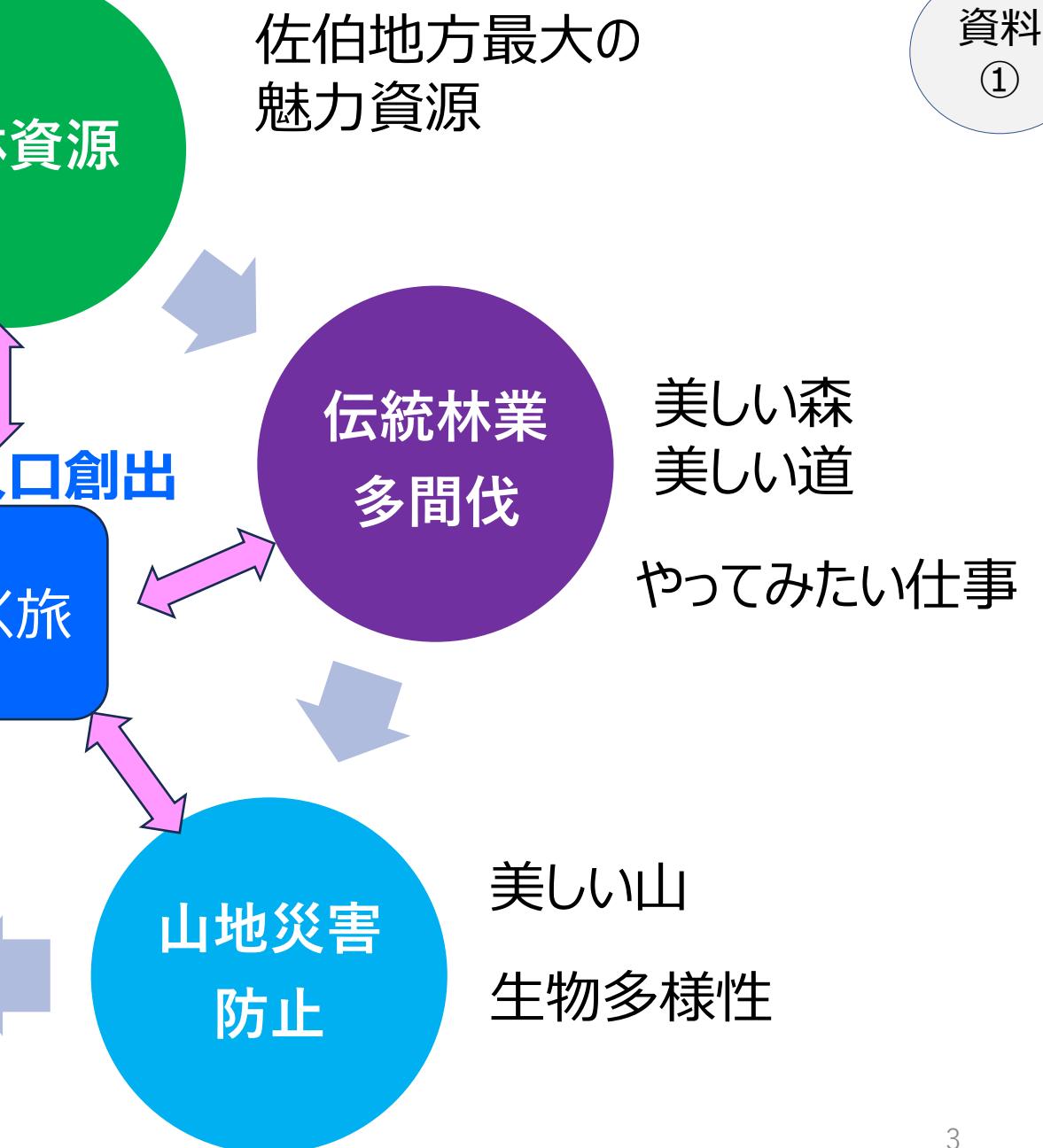
歩く旅

山地災害
防止

美しい山
生物多様性

美しい森
美しい道

やってみたい仕事



15ルート俯瞰図



「歩く旅」候補（15ルート）

	旅名	自然/歴史文化	地区	場所
1	古城の旅	梅牟礼城と関連史跡	旧市内、弥生	古市～門前～脇～稻垣～高畠
2	古跡の旅	佐伯氏の面影（史跡）	堅田	堅田一帯、竜王山
3	風土記の旅	上浦湾と景行天皇記	上浦	蒲戸崎～上浦湾
4	風土記の旅	彦岳と戸穴荘	狩生、戸穴、大入島	狩生、八幡地区（戸穴）、大入島
5	神々の峯の旅	嶮山と山岳信仰	狩生、弥生、本匠	彦岳～尺間嶽～椿山～聖岳～石槌山
6	白い旅	渓谷と文人	本匠	鬼ヶ瀬～前高明神（竹田、子玉、秋室、独歩）
7	山部の旅	部民と佩楯山	本匠	虫月～山部～樅峰～三国峠、山部～佩楯山
8	宝の山の旅	木浦鉱山と四皇子峰	宇目	天神原山～木浦～杉ヶ越
9	山天空の旅	佐伯五山と平家	宇目	佐伯五山、鷺鳥屋神社、藤河内渓谷
10	義民の旅	百姓一揆	直川、本匠	上津川～横川、仁田原～直見～切畠
11	兵どもの夢の旅	豊薩戦と西南戦争	宇目	三国峠～小野市～市園～重岡～梓峠
12	龍の背に乗る旅	シシ垣と段々畑	鶴見	(吹浦)～中越浦～猿戸～鶴御崎
13	海天空の旅	元越山と魚見台	米水津	尾浦坂峠越（旧道）、米水津湾、間越
14	神話と信仰の旅	神武東征とお大師様	蒲江（畠野浦）	入津湾、お大師様道
15	蒲江八景の旅	蒲江八景	蒲江（蒲江浦）	蒲江湾、屋形島、深島、背平山

1. 古城の旅



2. 古跡の旅



資料
②

3. 風土記の旅



4. 風土記の旅



5. 神々の峯の旅



修験の尺間山から
連なる岩峰群

6. 白い旅



渓谷美・仏座

7. 山部の旅



稜線の美・佩楯山

8. 宝の山の旅



木浦鉱山爆薬庫跡

9. 山天空の旅



10. 義民の旅



資料
②

11. 兵どもの夢の旅



12. 龍の背に乗る旅

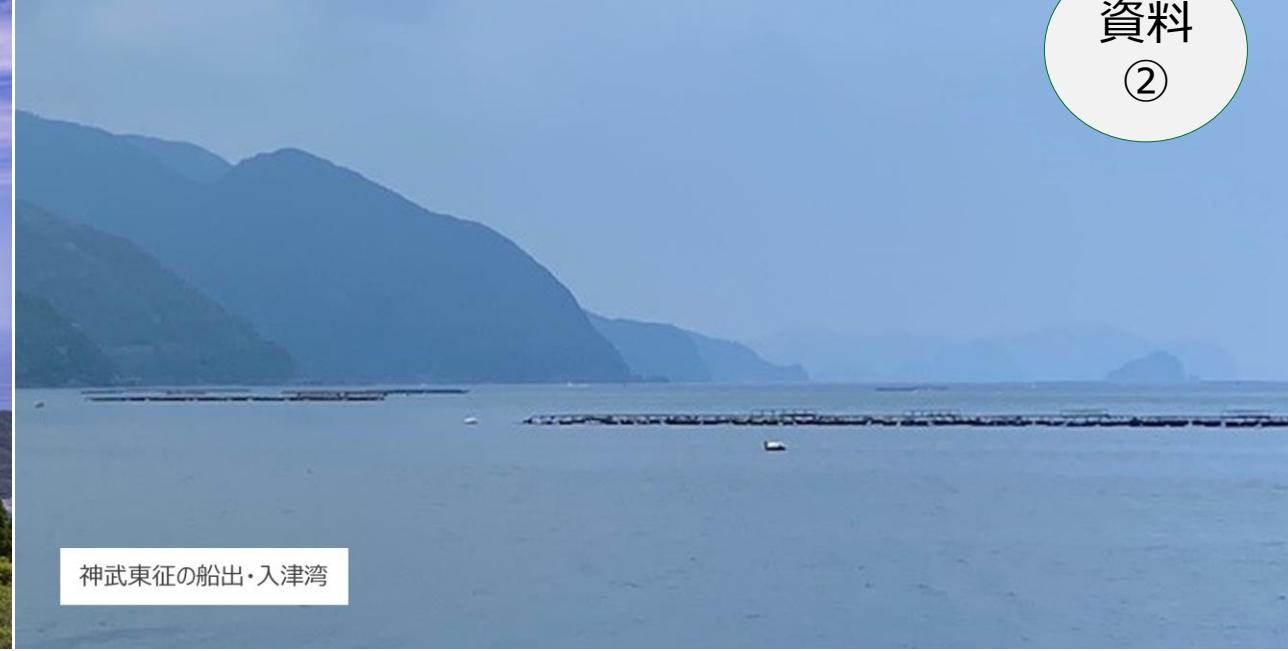


13. 海天空の旅



懷良親王と米水津湾

14. 神話と信仰の旅



神武東征の船出・入津湾

15. 蒲江八景の旅



墨絵の世界・背平山



リーフデ号が見た光景

資料
②

「歩く旅」の意図するところ～佐伯地方全域の活性と発展

＜日本の旅行消費＞

2021年・内部観光消費（訪日及び国内）
(10億円)

商品	消費額	構成比
宿泊	2,609	25.3%
飲食	1,376	13.4%
鉄道旅客輸送	818	7.9%
道路旅客輸送	141	1.4%
水運旅客輸送	42	0.4%
航空旅客輸送	507	4.9%
輸送機器レンタル	172	1.7%
旅行会社他サービス	52	0.5%
文化サービス	134	1.3%
スポーツ・レクレーション	288	2.8%
その他消費	4,160	40.4%
合計	10,299	100.0%

観光庁（旅行観光サテライト勘定）

＜経済波及効果＞

- ・生産波及効果
- ・雇用誘発効果

宿泊業
運輸業
飲食店業
小売業
旅行サービス業等
食料品産業
農林水産業

＜佐伯市での旅行消費誘発＞

- ・旅行消費を生み出す「魅力資源」
- ・これに誘導する「テーマ」

広大な空間

歩く旅

多彩な「自然景観」と
「民俗文化」、「物産の豊かさ」

広大な空間を歩かせることで
旅行消費、特に「宿泊需要」を
喚起

佐伯地方全地域の活性と持続的発展

（参考）波及効果（生産：1.9倍、雇用：1.7倍）

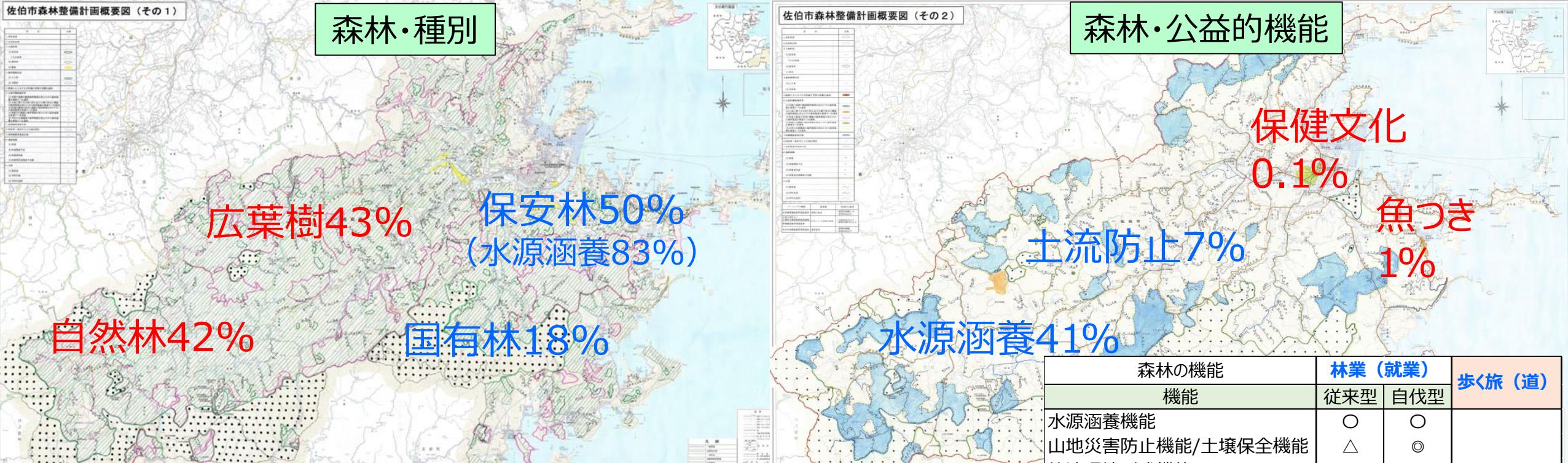
古道の美（峠道、尾根道）

歴史文化の再発見（古道をほぼそのまま使える）
沿道に佇む文化財の保全意識の醸成



「歩く旅」の森林資源とのシナジー

- ①「歩く道」と路網整備との補完機能を見いだせないか？
- ②「歩く旅」を介して中山間地での就業機会のきっかけを作れないか？

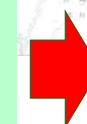


「観光客の還流」が生じるような保健文化機能に着目

→ 環境にお金を払う層

“土に触れると元気になる”

“森林から得られる最大のサービスは肉体と精神を刷新すること”



森林の機能	林業（就業）		歩く旅（道）
機能	従来型	自伐型	
水源涵養機能	○	○	
山地災害防止機能/土壤保全機能	△	○	
快適環境形成機能	△	○	
保健・レクリエーション機能	△	○	○
文化機能	△	○	○
生物多様性保全機能	△	○	○
木材等生産機能	○	○	
それぞれの特徴と就業機会の模索	大規模 皆伐	小規模 多間伐	観察と関心 移住・就業

林業との連帶（路網と歩く道）

森を歩き見守ることで生活環境を考える機会につなげる
→ 中山間地での就業と景観美と減災の未来像

三国峠・太郎林と路網



北川・松内の森と路網



畠野浦・路網とお大師様道

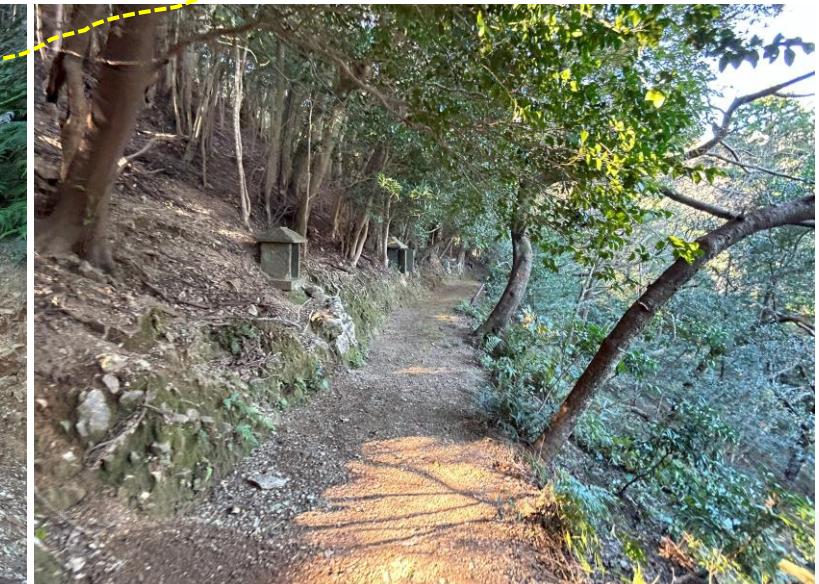


資料
⑤

杉の森が美しい
路網を歩く



杉の森が美しい
路網を歩く



元越山色利登山道を守る会（2007年旧道再現）

元越山色利登山道を守る会プロフィール

色利から元越山を通って佐伯城下に通じる道は

代官所へ行くための山越えの本道として古くから開通していた。

近年、通る人もなく荒れ放題のこの古道を忠実に探しながら

平成十九年二月～三月にかけて

『色利登山道を作る会』のメンバー十七人が修復し再現したものである

山頂付近には狼煙台とみられる二基の石組み台が見つかっている。

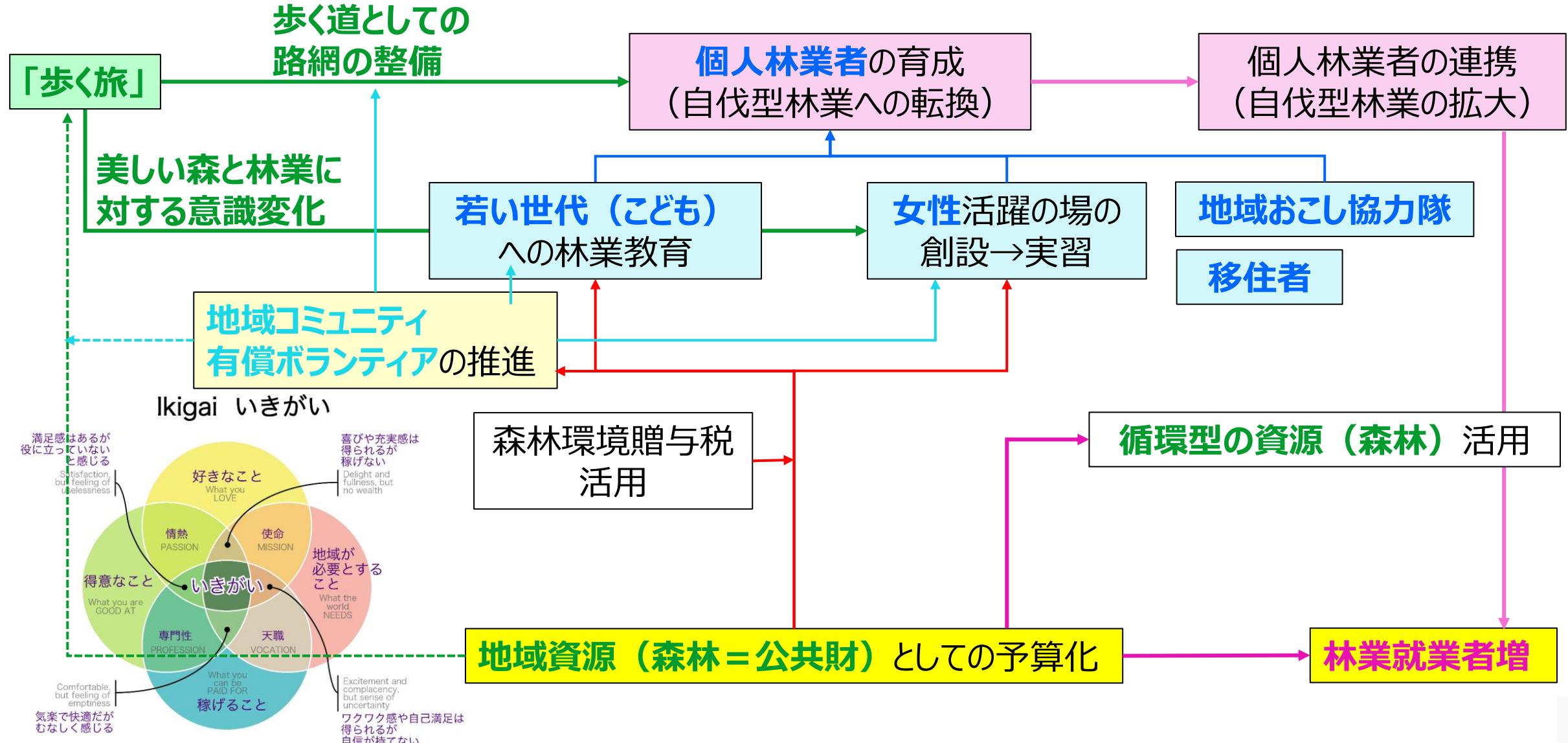


南北東西

新たなビジネスと既存ビジネスの拡大

ビジネス		内容	地産地消 等	備考
初期 モデル	旅行業	「歩く旅」の旅行サービス		ブランド管理（観光業者提携）
	健康スポーツ用品販売	トレッキング、ウォーキング	「歩く旅」ロゴ入り	ブランド管理（メーカー提携）
	土産品製造販売	「歩く旅」goods、特産品	「歩く旅」ロゴとイメージ	ブランド管理（旅のイメージ）
	弁当製造販売	「歩く旅」オーガニック弁当	佐伯の食材	ブランド管理
	木工品製造販売	「歩く旅」完歩証、弁当箱 古道復元ボランティア銘板	佐伯の木材	ブランド管理
	草履製造販売	「歩く旅」必携	材料？製造者？	国東七島藺とのコラボ？
	ツアーガイド	「歩く旅」同行	市民	ブランド管理（認定、語り部）
	宿泊	民泊運営		ブランド管理（指定、語り部）
直接		キャンプ地運営（テント泊）		ブランド管理
		古民家活用	グレードアップ	ブランド管理
	レンタル	「歩く旅」関連用品		
間接	レンタル	自転車、車		「歩く旅」目的地への移動
	クルーズ	観光船		「歩く旅」の延長
就業	(中長期的活動と支援)	観光ガイド+自伐型林業+民泊運営+有機農業+a		「歩く旅」による旅客の観察と関心

事業資源と就業の未来像



7つの創生への貢献

↓
<各種計画>
文化芸術振興
男女共同参画
健康づくり
産業振興

基本政策 さいき
7つの創生

佐伯市総合計画（7つの創生）

さいきオーガニックシティ



「歩く旅」の選定ポイントと「将来図」

＜歩く旅の選定ポイント＞ 人間性回復機会の提供

(*) 「ウェルネスツーリズム」の実現 等

ポイント	対象	課題
現時点で実現性の高い道	初期モデルになり得る道（海、山、里）	地元の協力と推進体制
感動に出会える道	景観、人、史跡、レクレーション（*）	仕掛け（物語性）
自然のエネルギーを吸収できる道	地勢、動植物、レクレーション（*）	専門性（説明出来る知識）
土の割合の多い道	旧道、尾根道（峠道）、レクレーション（*）	再現（地元の支援）
地元の暮らしや歴史を体験出来る道	対話（伝承）、史跡、仕事の現場	地元の協力
安全で安心である道	見守り	保全維持活動（地元組織）

＜歩く旅の将来図＞ 広大な空間の最大活用

項目	内容	効果
文化的景観作り	自然と文化が織りなす風景の発見と保全	文化財保全意識の向上
専門団体との提携	トレイルランニング、ボルダリング、アーシング等	認知度向上（プログラム充実）
イベント企画	野外音楽、天文観察、写生、写真、料理（ジビエ、山菜）等	認知度向上（芸術文化醸成）
専門家の育成	植生、動物、鳥類、昆虫、魚類、地質、等	地元人材育成（ふるさと理解）
資格取得	登山ガイド、救急救命（遭難）、ハーティング、等	専門人材育成（就業機会）

「龍の背に乗る旅」～鶴見半島のシシ垣

全国のしし垣（価値評価A以上）

Aランクの評価を得ているしし垣は**11ヶ所**。但し、残存距離に関しては長大なものは少ない。

鶴見半島のしし垣の諸元（残存距離、高さ、幅）は**トップランク**。

保存評価	価値評価	所在地	緒元	保存状態
1	A	愛知／岡崎市	長612m, 高約2m	オリジナルの形態を保った猪垣としては全国屈指の規模
1	特A	愛知／豊川市	周囲235m, 高平均1.25m	開けた土地にあるため保存状態良好
1	A	三重／尾鷲市・熊野市	長1100m	保存状態良好
1	A	三重／熊野市	長873m, 高1.6-1.2m	保存状態良好／猪垣に沿って街道が造られているので視認性が良い
2	A	滋賀／米原市	長約900m, 高最大2.5m, 幅1.0m（現存部）	保存状態良好
2	A	和歌山／新宮市	全長15km , 高1-2m, 幅約1m	放置
2	特A	広島／呉市	長6.5km , 高約2m	後世の開墾等で一部破壊／放置
2	特A	香川／小豆島町	長200m, 高1.6m（最高部）, 幅0.6m	土塙のため風化が進んでいる
3	A	徳島／美馬市	長1.5km（うち、空壕250m）	放置保存→崩壊
3	特A	長崎／西海市	延長約70km（当初） , 高約1.5m	西彼杵半島の尾根部に 一部が残る
3	A	大分／国東市	長12km（当初） , 土手上部幅約1m, 下部幅2, 高1.3m	樹木で侵食
2	A	大分／佐伯市	長10数km , 高2m, 幅90cm	残存確認箇所は離散的だが総延長は10数kmに達する

都道府県別Bランク以上のしし垣
(残存距離5Km以上)

Bランク以上で40ヶ所、**残存距離が5Km以上**のしし垣は**7ヶ所**。

鶴見半島のしし垣は新宮市に次ぎ2番目に長い。

地域	全件数	残存距離（5Km以上）件数	同左保存状態	保存評価
東北	1	1	仙台市（6.4Km）	住宅地に埋没
関東	4	0		
中部	5	0		
東海	2	0		
近畿	12	2	新宮市（15Km） 新宮市（5Km）	放置
中国	3	1	吳市（6.5Km）	破壊、放置
四国	4	1	南宇和（8.8Km）	視認困難
九州	9	2	鶴見半島（10数Km） 西海市（当初70Km）	離散的も10数Km残る 一部残存
計	40	7		

「近世以前の土木・産業遺産（しし垣）」より

「歩く旅」の意義・効果と魅力

資料
⑩

<地域にとって> 関係人口の創出

- 地域住民の地元理解・再認識につながる（来訪者の声が届く）
- 地域活性化につながる
- 幅広な経済効果につながる（一人当たりの消費単価が高い）
- 地域活動への主体的な参加を促す
- 持続可能な観光資源／教育の場等になる（そこにしかないこと）
- 地域全体のブランド力が向上する



<歩く人にとって> ニューツーリズム

- 命のきらめき、風の揺らぎ、文化の奥深さ、「最先端は、歩く旅」時速4Kmの先に広がる豊かな旅
- 森を抜け、山を越え、海を眺め、人と出会う——より深い旅の魅力
- 人間らしいものが生まれるのが「歩く旅」

WALK JAPAN



JAPAN
TRAIL
日本トレイル



YAMAP

Japan Trailと大分県で歩くことが出来るルート



資料
⑪

④【plus】国東半島峯道ロングトレイル
梅園の里～行入ダム
約24km

④国東半島峯道ロングトレイル
田原山～真玉温泉～両子寺～梅園の里
約93km

④おもと古道
宇佐神宮～御許山～芋恵良
約8km

④九州自然歩道（くじゅう）
納池付近～長者原～耶馬渓
約89km

④奈多行幸会の道
梅園の里～安岐～八幡奈多宮
約21km

④由布・鶴見岳
塚原越～由布岳～城島高原
約20km



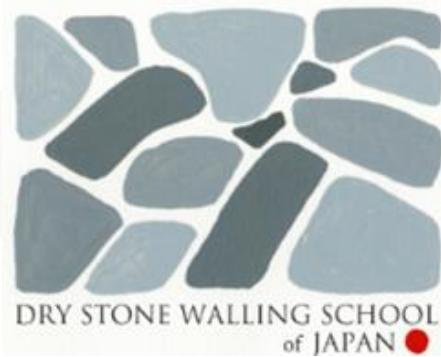
佐伯地方の近くのトレイル

③祖母山
高千穂～祖母山～五ヶ所高原
約33km

コンテンツの魅力化

項目	内容	補足説明
体験	古道と石積みによる風土的景観の復元への参加 →石積みワークショップ（シシ垣修復、段々畑復元）、石積み技術者育成 草履の旅 （草履で歩くべし、象徴的土産品へ）～ウェルネスウォーク	石積み学校
逸物発見	自然造形の逸物、発見者に 名称権 、「歩く旅」のPRに採用	
コンテスト	(テーマ) 僻南礼賛 エッセイ、写真、スケッチ（市民投票による 四季MVP 、 年間MVP ）	報酬
イベント	森林浴とアーリング、トレッキング、トレイルランニング、自然観察、天文観測、野外音楽会	協力団体
メディア	(QRコード) 体験・発見・意見フィードバック、 電子マネー寄附	開発運営
ビジネス拡大	「歩く旅」goods、「歩く旅」オーガニック弁当、「歩く旅」ツアーガイド 古民家再生（宿泊施設運営）、自伐型林業の浸透	

一般社団法人石積み学校



項目	内容	補足
活動目的	石積みの風景とそれを支える技術の継承	修復箇所
空石積み	中山間地の棚田や段畑の石積み	「歩く道」の復元活動や教育活動
	環境負荷が低い工法として再評価	①シシ垣や段々畑の修復（歩く道） ②教育（修復活動、文化伝承） ③石積み技術の伝承（地元）
	災害に対してもしなやかに対応できる技術	
	大きな労力と資金をかけずに維持	
	文化の継承に寄与（自分たちで積む）	
事業内容	石積みをおしながら技術を伝える	修復ワークショップ 現場で石積みを直しながら 技術伝承（15~20m ² /2日）
	空石積みの価値を伝える	ユネスコ無形文化遺産指定
	企業や地域と取り組む	新たな仕事づくり

自伐型林業の特徴（伝統林業、多間伐）

新たな生業

兼業型（農業、観光等）であること

自伐型林業は秋冬型の季節労働が主となりますので兼業型が基本スタイルです。

森林率8割を超える地域では自伐型林業を主業としながら、農業や観光、また地域資源を使った小さな仕事との組みあわせで多様な生業スタイルが可能です。農業や観光の専業スタイルから、自伐を核にした兼業スタイルが、高収入をも可能にする新たな生業スタイル構築につながります。

移住・定住

中山間地域での人口減少対策になること

自伐型林業による山林を固定した持続的森林経営は、長期的に安定した収入源となり、家族を安定して養える定住策となります。100年を超える多間伐施業が軌道に乗ると次世代に続く定住策となり、地域における人口減少対策となります。中山間地域でこの成功事例が見せられると都会からの大規模な移住も起こるでしょう。

防災・減災

森林環境を変えない控えめな間伐であること

長期的森林経営を実現させるためには、風雨等の自然条件に耐える工夫をせざるを得ません。地形や風土を見極めながら、環境を変えない控えめな間伐、風・水・光を抑制する小規模な作業道等をおこないます。これらの工夫は、土砂崩壊を抑制する小規模な砂防施設の効果を發揮し、過去の紀伊半島豪雨、西日本豪雨においても、自伐型林業者の山林ではほとんど被害が見られませんでした。



獣害対策

林業施業の日常化で獣害対策になること 農業基盤の安定に寄与すること

日常的に林業施業で人が入ると、野生動物が隠れる場所が少なくなり、獣害対策に効果が出てきます。高知県では、自伐型林業者が増加（数年で約400人以上）することにより獣害被害が減少した実績があります。その結果、農業生産の基盤が安定し、農業生産高の向上につながります。

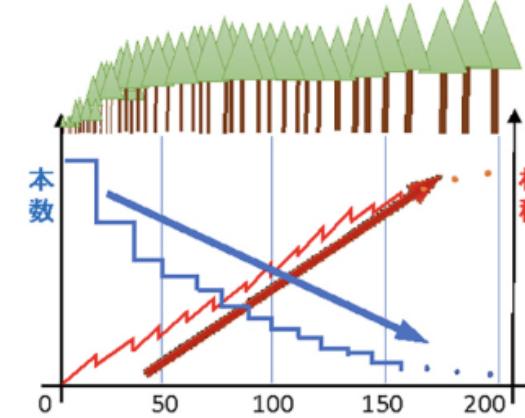
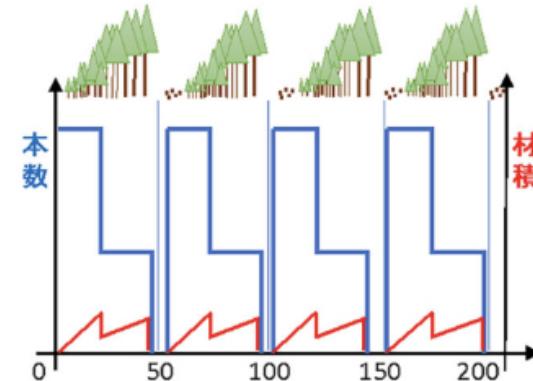
木材流通

良質な材（A材）の需要に対応出来ること

自伐型林業者が生産した良質な材（A材）は、現状でも主に市場に出荷され地域内外に販売されます。今後高齢樹材が増えるに従いA材の需要（国内外の）拡大は重要です。低質材（C材）は、木質バイオマス発電所や薪ボイラーを設置する温浴施設・福祉施設などの需要を地域で拡大することが重要です。A材は海外含めた広域需要拡大、C材は地域内需要拡大が基本です。

現行林業との比較

	現在の一般的な林業(再造林施業)	自伐型林業(多間伐施業)
基本スタイル	経営・施業を請負事業体に全面委託 (所有と経営・施業の分離)	経営・施業を自ら or 山守と共同で実施 (所有と経営の一致:自立した自営業)
施業手法と採算性	短伐期皆伐施業(50年皆伐・再造林) 採算が合わず高額補助金頼み	長期にわたる多間伐施業(100年~150年以上) 2~3回目の間伐から補助金なし(完全自立)
規模	大規模施業 + 大型機械 + 幅広作業道	小規模施業 + 小型機械 + 2.5m以下の作業道
生産材	B材(合板・集成材) C材(エネルギー材)生産が主体	A材(無垢材等)の高品質材生産が主体 +B・C材
総合	B・C材生産し、50年で終わり→またゼロから →不採算のまま繰り返し！	50年目から持続的森林経営がスタート、 「儲かる林業」の始まり→現行林業の課題解決



自伐型林業と「歩く旅（道）」

「小さな林業（自伐型）」による若者の移住の可能性

森林の機能	林業			将来
	従来型	自伐型	歩く旅（道）	
機能				
水源涵養機能	○	○		
山地災害防止機能/土壌保全機能	△	○		
快適環境形成機能	△	○		
保健・レクリエーション機能	△	○	○	
文化機能	△	○	○	
生物多様性保全機能	△	○	○	
木材等生産機能	○	○		
特徴	大規模	小規模	観察と関心 移住・就業	
			皆伐 多間伐	



自伐型林業の特徴		
家族経営（林家）による自立経営（多間伐）		
山林環境との共生により豊かな森を維持し「持続的な就業」を保証		
中山間地域に移住者（若者主体）がこの「小さな林業」を営むことで地域再生の切り札になり得る可能性		
路網は地勢に合わせた細く網の目の様に巡らされ永続的使用を可能にし、「壊れない美しい道」となり、多間伐による山林は「癒される環境」をも実現していること		
項目	現行林業	自伐型林業
伐期	標準伐期50年	長伐期 多間伐（2割間伐以下/回<成長量）
生産	皆伐（100%/50年）	持続的、蓄積量増
育林	ゼロから再スタート	
再造林	皆伐分	3~5ha（2割間伐以下）/回
路網敷設	大型高性能林業機械	小型機械
搬出	大型車両（10t）	小型車両（2t）
路網	幅広作業道（一回限り、使い捨て）	2.5m以下（壊れない作業道、継続使用）
規模	大規模集約型（大規模経営、森林組合）	30~50ha（3~5ha/間伐）、自家（個人）経営
収入	主伐時（50年時） 内、補助金が7~8割	間伐時（収入漸増） 平均出荷量200~300m³、売上300~500万円、経費20~30万円、兼業でやれる
事業性	赤字（補助金頼み）	完全自立（補助金ゼロ）
品質	B材（合板・集成材、弱齡林、低単価）	A材（高樹齢、良質材）、B材
就業	就業者減少（就業者は補助金で決まる）	就業者創出（多様、若手増、ライフスタイル/兼業）
山林環境	森林劣化、山林崩壊（土砂災害誘発）	成熟山林、減災（砂防、治山）
他	絶望の林業（経済的に破綻）	伝統林業（共生） 癒される森（自然度の高い植種保持） 「壊れない道は美しい道」

「僻南のまほろばを歩く旅」初期費用（3ルート）

(暫定値、★詳細検討不足)

	広報メディア費	初期整備費	設備費
予算見積額	4百万円	1百万円	3百万円
内訳	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴ制作（芸術性） ・パンフレット制作（芸術性） ・PR動画制作（芸術性） ★・QRコードとナビシステム（MAP、コンテンツ）→次段階から検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロマネ人件費（専門監督者） ・ボランティア募集 ・ルート調査費（概算仕様書） 	<ul style="list-style-type: none"> ・道標製作（芸術性） ★・展望台（既設利用） →次段階から統一的に整備 ★・休憩所（トイレ含む） →次段階から検討
神話と信仰の旅	パンフレット制作	既存ルート利用 (必要時ボランティア)	道標（入出口・中間 計3本） QRコードを案内主体 にする
海天空の旅	パンフレット制作	既存ルート利用 (必要時ボランティア)	同上
龍の背に乗る旅	パンフレット制作	シシ垣修復 ルート整備（遊歩道+新規） ボランティア募集	同上 入出口階段整備
プロマネ単価		3万円/人日	
小型ユンボレンタル		10万円/月	

「歩く旅」に関する指標

観光庁統計（2021～23年）、大分県観光実態調査/動向調査（2022年）、
JTB旅行意識調査（2022年）、総務省Dashboard統計（2016年）

項目	内容			
佐伯市の産業雇用創造 <small>（両者のアンバランス）</small>	雇用力	社会保険・社会福祉・介護事業	医療業	飲食料品小売業
	稼ぐ力	水産養殖業	水運業	漁業
日本の観光消費額	10兆2990億円	宿泊業：25.3%	飲食業：13.4%	鉄道旅客業：7.9%
日本人の旅行タイプ	温泉：50.7%	自然：49%	グルメ：42%	歴史文化：38.9%
日本人の一人当たり 観光消費額	全国平均	宿泊：64,023円/人回	日帰り：18,420円/人回	宿泊/日帰り：3.5倍
	大分県	宿泊：49,602円/人回	日帰り：6,372円/人回	宿泊/日帰り：7.8倍
大分県の延べ旅行客数	全体：7,598千人	宿泊客数：5,044千人	宿泊客比率：66%	
	旅行客居住地	県外：61.7% 県内：38.3%	県外中 福岡県：43.4%	県外中 他九州：25.8%
大分県の立ち寄り市町村	別府市：24.7%	由布市：20.3%	佐伯市：7.4%	面積比率：14.2% 人口比率：5.7%
大分県の宿泊市町村	別府市：48.3%	由布市：22.7%	佐伯市：1.7%	
「歩く旅」による経済効果 <small>（直接効果）</small>	日帰り→宿泊シフト	最小：16億円/年	最大：33億円/年	最小計：41億円/年 最大計：83億円/年 <small>（波及効果含まず）</small>
	宿泊→シェアアップ	最小：25億円/年	最大：50億円/年	
「歩く旅」運営費	ブランド料：2%	最小：0.82億円/年	最大：1.66億円/年	「歩く旅」の商標使用

「すべての歩く旅（15ルート）」の経済効果試算（波及効果を含まず）

- ・「歩く旅」全ルート完成した場合を想定
- ・旅客が日帰りから宿泊にシフト+新規旅客の流入が生じると推定
- ・年間経済効果：41億円～83億円（初期モデル：6～13億円）
- ・この経済効果が地元でどのような産業を誘発するかは検討課題

（参考）波及効果（生産：1.9倍、雇用：1.7倍）

＜前提＞

	日帰り	宿泊	合計	備考
大分県・延べ旅客数（千人）	2,554	5,044	7,598	観光庁・観光統計（2023年）
佐伯市シェア（%）	7.40%	1.70%	3.6%	大分県・観光動向調査（令和4年）
佐伯市延べ旅客数（千人）	189.0	85.7	274.7	合計シェアは逆算

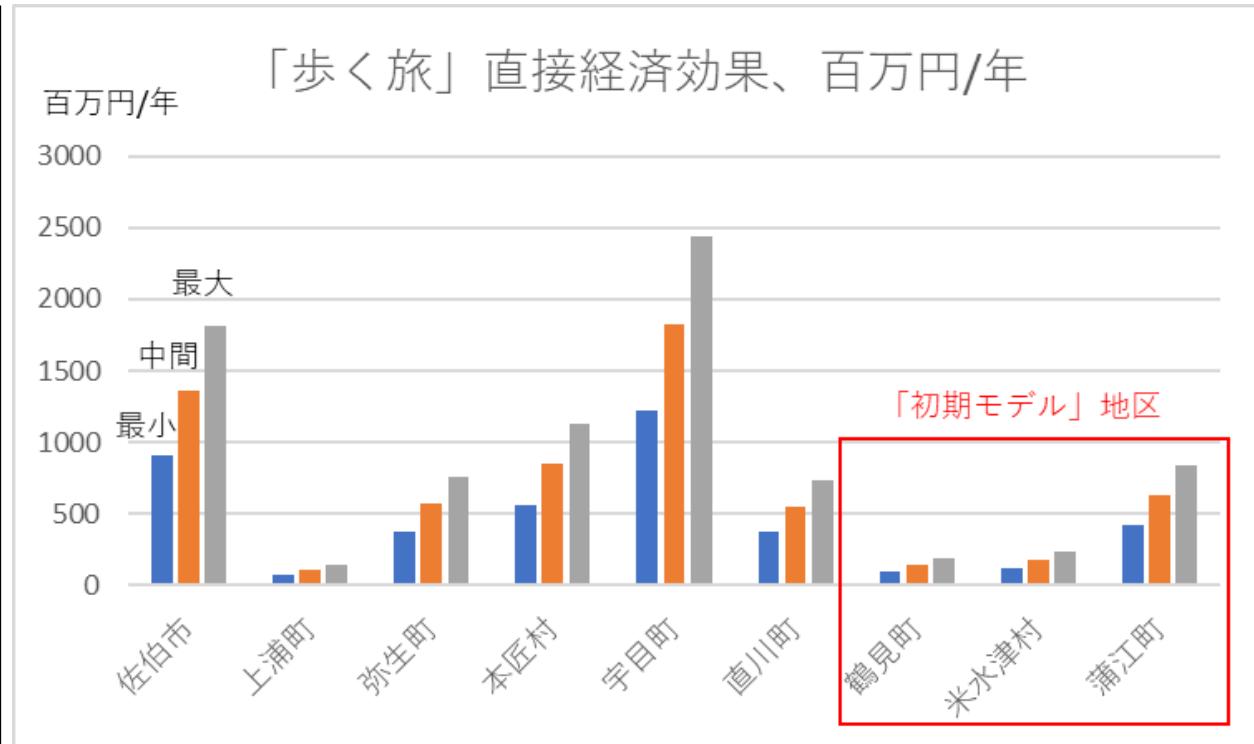
＜効果＞

「歩く旅」による宿泊シフトと新規流入旅客試算				
佐伯市日帰り延べ旅客数（千人/年）	189			大分県観光動向調査より試算
佐伯市・宿泊シフト（日帰り→宿泊）	2割シフト	3割シフト	4割シフト	日帰り：6,372円/人回
佐伯市・宿泊旅客数増分（千人/年）	37.8	56.7	75.6	宿泊：49,602円/人回
経済効果（億円/年）	16.3	24.5	32.7	増額：43,230円/人回
大分県宿泊延べ旅客数（千人/年）	5,044			観光庁・観光統計（2023年）
佐伯市・宿泊旅客数シェア増（%）	1%	1.50%	2%	
佐伯市・延べ宿泊旅客数増（千人/年）	50.4	75.7	100.9	
経済効果（億円/年）	25.0	37.5	50.0	宿泊：49,602円/人回
経済効果合計（億円/年）	41	62	83	人回=人日（1泊シェア：70%）

「初期モデル（3ルート）」の経済効果試算（波及効果含まず）

- ・地区ごとの経済効果についての試算根拠はないが、「歩く旅」という空間利用という観点から面積比で配分
- ・「初期モデル」地区での経済効果は、**最小629百万円/年～最大1,257百万円/年**

旧市町村	面積		直接経済効果、百万円/年		
	km ²	面積比	最小	中間	最大
佐伯市	197.37	21.9%	904	1,356	1,808
上浦町	15.67	1.7%	72	108	144
弥生町	82.89	9.2%	380	569	759
本匠村	123.15	13.6%	564	846	1,128
宇目町	265.99	29.5%	1,218	1,827	2,436
直川町	80.82	8.9%	370	555	740
鶴見町	20.21	2.2%	93	139	185
米水津村	25.24	2.8%	116	173	231
蒲江町	91.8	10.2%	420	631	841
合計	903.14	100.0%	4,136	6,204	8,272
鶴米蒲計	137.25	15.2%	629	943	1,257
運営費（ブランド料2%）			13	19	25



(参考) 波及効果（生産：1.9倍、雇用：1.7倍）

経済効果検証

- 一日当たり旅客数で検証（人回 \equiv 人日とした）
- 初期モデルでの試算（最小6億円～13億円）に達する旅客数：一日当たり宿泊客数・約50人
- 全15ルートでの試算（最小41億円～最大83億円）に達する旅客数：一日当たり宿泊客数・約300人

(現実値) 大分県の平均宿泊単価は温泉宿泊が主体の単価、現実的にはもっと**低単価**と推察
 現実値 → 同左平均 **(Case 1 + Case 2) /2**とするともっと**旅客数増が必要**

分類	旅客数		Case 1 宿泊客ベース		Case 2 日帰り客ベース		同左平均 (1/2)
	人/日	年間 (人)	宿泊単価	年間消費額	日帰り単価	年間消費額	
			円/人回	百万円	円/人回	百万円	
初期モデル	20	7,300		362		47	204
	50	18,250	49,602	905	6,372	116	511
	100	36,500		1,810		233	1,022
全15ルート	200	73,000		3,621		465	2,043
	150	54,750		2,716		349	1,532
	300	109,500	49,602	5,431	6,372	698	3,065
	750	273,750		13,579		1,744	7,661
	1,500	547,500		27,157		3,489	15,323
県内宿泊日数： 1日 (70%) 、2泊 (16%)、3泊以上 (6.3%) → 人回\equiv人日							

インフラ整備と管理体制

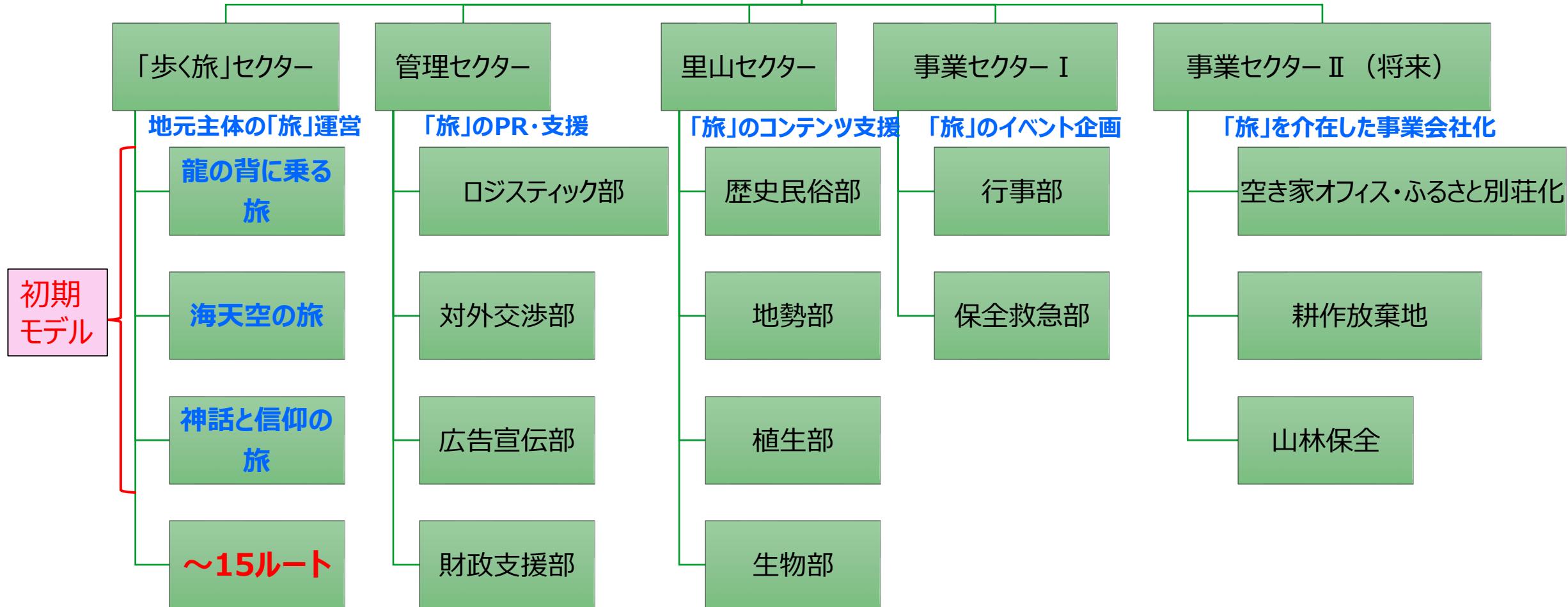
「歩く道」の要件（環境省）		対応
1	長く一本に続いている道であること	それぞれの地域を活かす道を ネットワーク化
2	歩道の 管理体制 が明確であること	地域コミュニティ と連帯
3	歩道の状況を把握し、共有する仕組みがあること	旅客も見守り役
4	利用情報を提供する仕組みがあること	市観光サイト、SNS活用
5	3、4を適切に実施するための地域を含んだ 管理体制 があること	行政と連携しつつ地元主体に維持保全

将来図 「僻南のまほろばを歩く旅」

協議会：意思決定
 「歩く旅」セクター：「旅」の付加価値化、保全
 管理セクター：運営支援、対外折衝
 里山セクター：調査、教育、環境対策
 事業セクター：行事計画、保守と救急
 事業会社化・事業提携

事業運営：
 原則、ボランティアによる運営
 各セクターに専門家をアドバイザーに起用
 将来事業については事業会社化（事業提携）

開発資金：補助金、寄附金、クラウドファンディング
 運営資金：同上、将来的には出資・借入



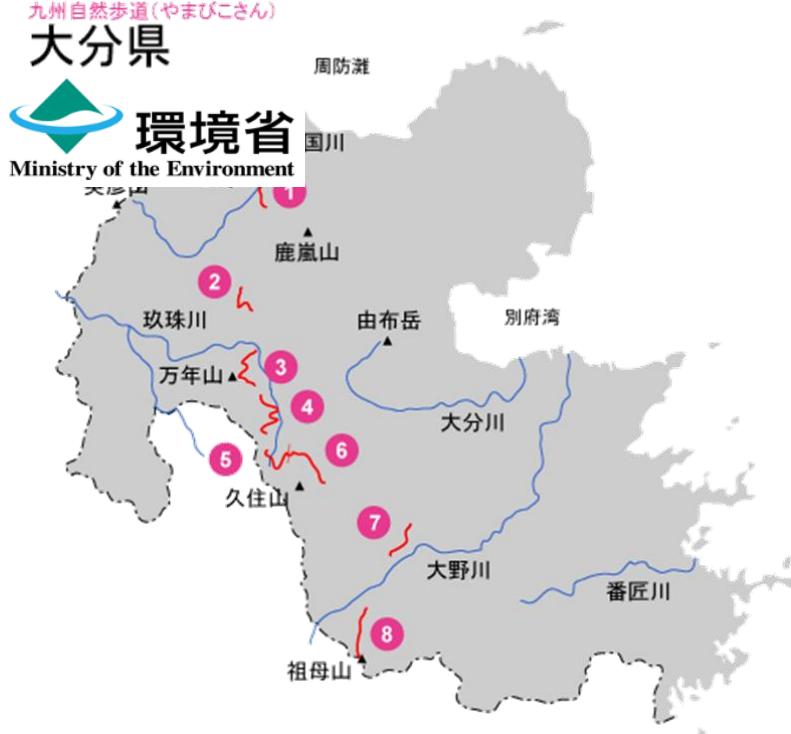
誘客（大分県の優位性）

- 大分県の優位性の利用→**温泉と歩く道**
- 既にある「Walk Japan（大分県のTours）」と「国東半島峯道ロングトレイル」等の旅客の佐伯地方への誘客

温泉巡り

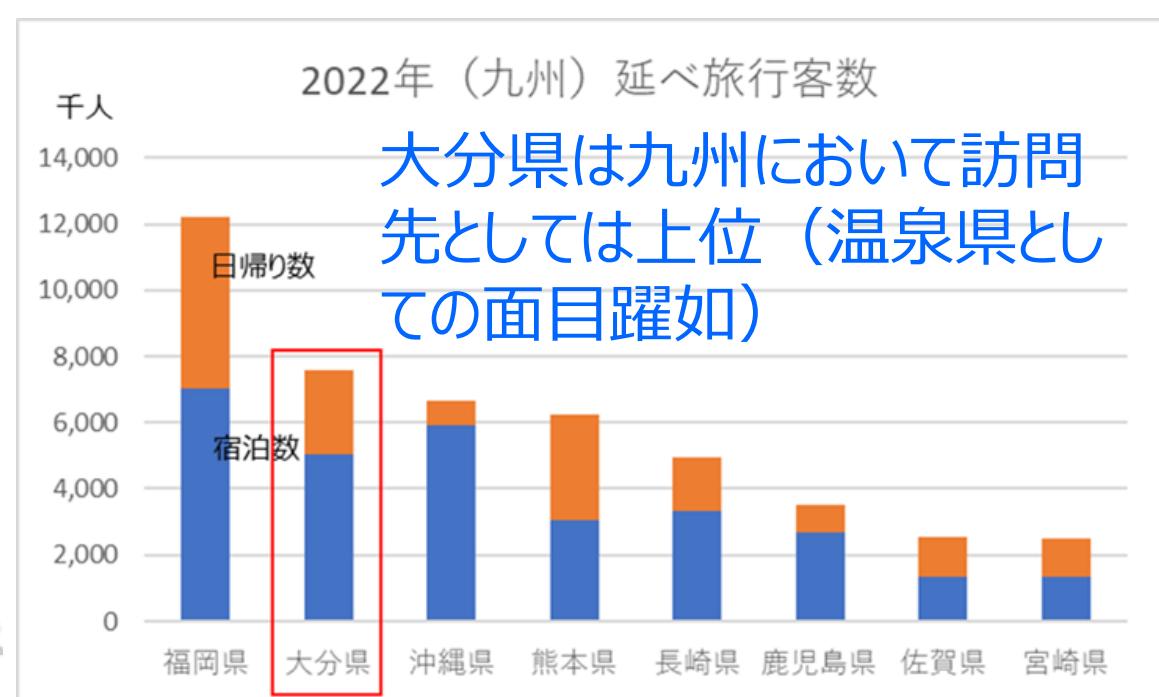


九州自然道（大分県コース）



2022年（九州）延べ旅行客数

大分県は九州において訪問先としては上位（温泉県としての面目躍如）



交通手段の確保

	行程	手段	対策（課題）	現状
	大分/宮崎空港～佐伯	JR、高速バス		
	九州各地～佐伯	車、観光バス		
現状	佐伯～「歩く旅」	車	「歩く道」入出口に 駐車場確保	不十分
		レンタサイクル	「歩く道」入出口で 乗り捨て	対応不可
		コミュニティバス	「歩く道」入出口に バス停	既存バス停の制約
		送迎	地元団体 ボランティア (入出口からバス停)	天空ロード実現済
将来	佐伯～「歩く旅」	「歩く旅」 巡回バス	コミュニティバスの発展的活用	事業性次第
		遊覧船運航（葛港～ 各浦 ） 定期船（大島 + 寄港地増 ）	海からの絶景（誘客効果） 昔の交通手段（復活）	事業性次第
		宇和島との 観光フェリー	相乗効果 、豊後水道（誘客）	事業性次第

現行の交通手段（定期船：葛港～大島）



★発着時刻表

平成25年10月1日から

	佐 伯 発	大島地下発	大島田野浦着	大島田野浦発	大島地下発	佐 伯 着
1 便	6:30	—→	7:02	7:15	7:22	7:55
2 便	12:00	12:30	12:35	12:45	—→	13:17
3 便	16:30	17:05	17:10	17:15	—→	17:47

※1月1日・1月2日は全便休航

日曜・祝日の2便是休航

定期船（葛港～大島）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
利用数（人）	9,952	9,935	9,062	8,201	8,584	8,294
旅客（千円）	10,912	10,761	9,597	8,669	9,197	9,142
貨物収入（千円）	2,711	2,490	2,384	2,190	2,028	1,837
収入計（千円）	13,623	13,251	11,981	10,859	11,225	10,979
旅客（人）		9,587	9,230	8,418	8,237	8,550
内、釣り客（人）		1,091	1,222	964	998	1,006
釣り客比率		11%	13%	11%	12%	12%

上段：1月～12月、下段：10月～翌9月
(出所) 大島航路事業経営戦略（令和3年3月）

「釣り客」と「歩く人」を
運ぶ→観光船兼用

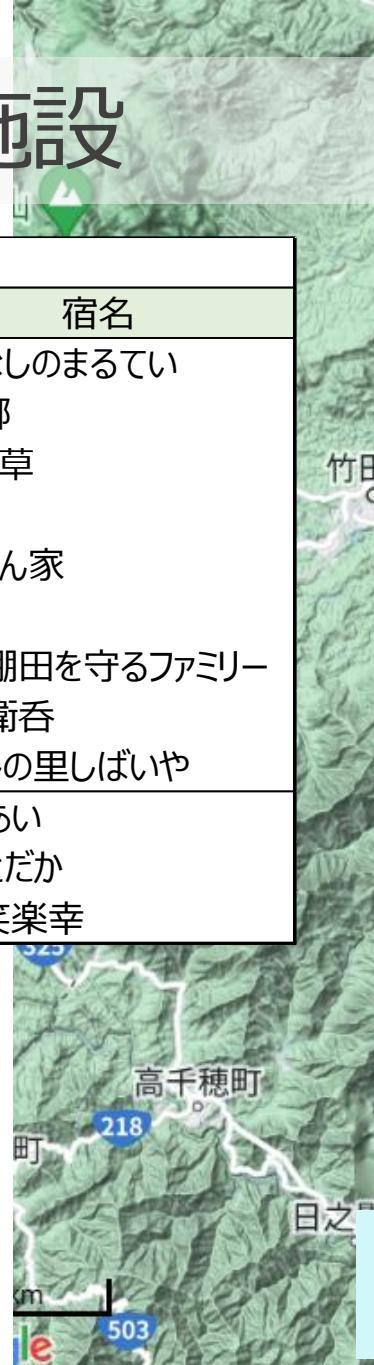


現行の宿泊施設



佐伯グリーンツーリズム（農泊）

地域	場所	宿名
山エリア	弥生床木	みずなしのまるてい
	本匠小川	藤の郷
	直川上直見	おきな草
	直川横川	あし
	直川上直見	かわちん家
	宇目河内	ほたる
	長谷大越	大越棚田を守るファミリー
	木立	笑兵衛呑
	青山	かすみの里しばいや
	海エリア	民宿あい
海エリア	米水津色利浦	民宿とだか
	蒲江畠野浦	浜の笑楽幸

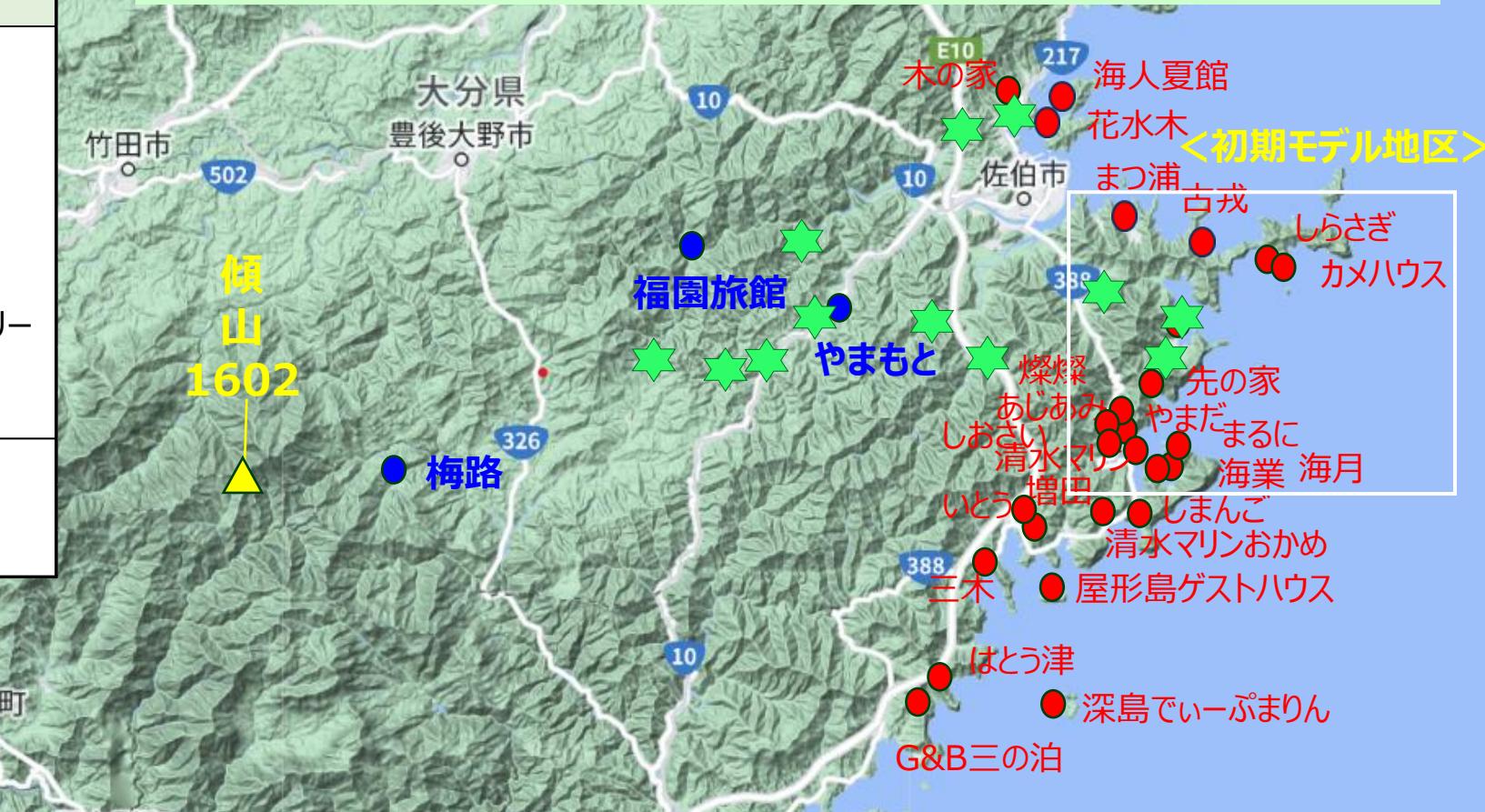


佐伯市の宿泊環境（市内を除く）

佐伯市観光協会及び旅行サイトより（営業しているか否かは未確認）

海岸部に民宿主体の宿泊施設が集中、内陸部には宿泊施設が乏しい

「歩く旅」の為には宿泊施設の充実が必須



良質な宿泊環境の整備により良質な観光客の長期滞在を促すべき
(一級の自然景観があるにも関わらず世間に顧みられていない)